

関西体育心理例会通信

< 会員誌第8号目次 >

- ✓ 巻頭言『はじめに』・・・直井愛里（近畿大学）
- ✓ 平成20年度第一回例会発表要旨
 - ・『ストレッチワークが背景脳波の変動パターンに及ぼす影響』・・・近藤正子
 - ・『野球選手のGo/Nogo反応時間』・・・来田宣幸（京都工芸繊維大学）
- ✓ 例会傍聴記
 - ・『例会に参加して』・・・手塚洋介（大阪体育大学）
 - ・『関西体育心理例会に参加して』・・・島谷理香（大阪体育大学大学院生）
- ✓ 2008年度 関連学会大会日程
- ✓ 事務局より

はじめに

世話人：直井愛里（近畿大学）

平成20年度第一回関西体育心理例会が、5月10日（16:00~18:00）に近畿大学会館で開催され、総勢17名の研究者の方々に参加していただきました。今回は、近藤正子先生に「ストレッチワークが背景脳波の変動パターンに及ぼす影響」、来田宜之先生（京都工芸繊維大学）に「野球選手のGo/Nogo反応時間」についての研究発表をしていただきました。それぞれの発表では、学生時代に行われていた研究から現在の研究に至るまでの過程を説明していただいたので、自らの研究を振り返る参加者、また、今後の研究について考えたりする参加者もおられたかと思えます。

質疑応答では、ベテランの先生方から、研究の組み立て方についての貴重なアドバイスをいただき、（私を含めた）若手研究者には勉強になりました。どのような哲学を持ち、そして何を目的として研究を行っていくのかなど、研究者が向きあわなくてはいけない課題も話し合わせ、貴重なディスカッションができたと思えます。

例会後に開催された懇親会では、新しく関西に来られた先生方や大学院生の紹介も行われ、新しいネットワークを築くことができました。また、アルコールも入ったことで緊張もほぐれ、研究、教育、そして実践に関しての活発な意見交換が行われたことから、今後の研究活動へのモチベーションを刺激された参加者も多かったことかと思えます。関西体育心理例会のメンバーで研究や翻訳をしていこう！という提案もあり、新しい企画も検討していきたいと考えています。

最後に、例会の日程の連絡が遅くなったことをお詫び申し上げます。次回は、より多くの方に参加していただけるよう、日程調整をできるだけ迅速に行っていきたいと考えています。

『ストレッチングワークが背景脳波の変動パターンに及ぼす影響』

近藤正子

「ストレッチングワークが背景脳波の変動パターンに及ぼす影響」について「なぜこの研究をすることになったのか」「なぜずっとデータを抱えたまま迷子になっているのか」を話させて頂きました。実験データ云々ではなく、自分自身の研究テーマ（哲学）を考える貴重な機会となりました。相変わらずのヘタレな発表だったにも係らず、丹羽先生、荒木先生をはじめ、諸先生方から多くの具体的なアドバイスを頂戴することができました。身近に様々な先生方から惜しげない意見を頂ける、貴重な場であるこの例会の今後ますますの発展を願っております。

『野球選手の Go/Nogo 反応時間』

来田宣幸（京都工芸繊維大学）

例会では、これまでの研究の流れと今の研究興味に触れながら、学位論文「Go/Nogo 反応時間課題を用いたヒトの運動制御機構の研究」の3つの実験のうち、実験1の内容を紹介しました。研究の背景として、大学野球部時代に全く勝てなかったこと（1勝80敗）がきっかけでスポーツ科学の世界に飛び込み、筋電図や反応時間のデータを取りながら、野球の現場へいかに貢献するかというテーマに挑みつつ、今に至る姿の変化を見ていただけたのではないかと思います。体育心理学という純粋な枠からは少し外れてしまうかもしれませんが、最近おこなっているバントやベースランニングのデータなどにも触れながら、学位論文のデータ（野球選手の Go/Nogo 反応時間が種目特性を持ち、さらに、プロ野球選手では単純反応時間と Go/Nogo 反応時間が極めて高い相関を持つ）を紹介しました。

例会に参加して

大阪体育大学体育学部 手塚洋介

今回初めて、関西体育心理例会に参加いたしました。この場をお借りして、簡単な感想をお伝えしたいと思います。研究会では、近藤正子先生と来田宣幸先生のお二人のご発表を拝聴させていただきました。近藤先生のご発表では、先生のこれまでの研究生活における苦悩と未来への希望が語られ、非常にユニークな内容でした。また、来田先生のご発表は、私がこれまでスポーツ科学に抱いていた認識を大きく変えるほど印象的なものでした。私はこれまで、心理学には心理学の研究手法があると強く認識していました。しかしながら、スポーツ科学という視点に立つと、心理学の研究法以外にもバイオメカニクスや生理学の手法など多様な手法を駆使して研究する必要が生じるわけで、それを実践されている来田先生のご研究に私はノックダウンされそうになりました。今後の私の研究の幅を広げてくれるであろう、とても貴重な機会となりました。当日は、基礎と応用の両側面が

複雑に絡み合うスポーツ科学の面白さを垣間見られた一日でした。最後に、例会を運営していただいている事務局の先生方に御礼申し上げます。

関西体育心理例会に参加して

大阪体育大学大学院 島谷理香

今回、関西心理例会に参加させていただき、私自身がこれから研究を始めていくにあたって、とても良い刺激を受けることが出来ました。

近藤先生と来田先生の発表、質疑応答からは、研究の厳しさや難しさ、そして楽しさやおもしろさを学ぶとともに、現場へ返すことの必要性を考えさせられました。足りないくらいのあつという間な2時間でした。懇親会では美味しいビールで話もはずみ、多くの先生方にお話を伺うことが出来、楽しく充実したひと時を過ごすことが出来ました。

このような場に参加させていただいたことにとっても感謝しております。ありがとうございました。

2008年度 関連学会大会日程

学会大会名	開催日	大会会場
日本野外教育学会 第11回大会	6/16-17	びわこ成蹊スポーツ大学(滋賀)
日本ストレスマネジメント学会 第7回大会	7/26-27	関西福祉科学大学(大阪)
メンタルトレーニングフォーラム・イン・関西	8/23	大阪体育大学(大阪)
日本体育学会 第59回大会	9/9-12	早稲田大学早稲田キャンパス(東京)
日本健康心理学会 第21回大会	9/12-13	桜美林大学(東京)
日本心理学会 第72回大会	9/19-21	北海道大学(北海道)
日本教育心理学会 第50回大会	10/11-13	東京学芸大学小金井キャンパス(東京)
日本メンタルトレーニングフォーラム 第3回大会	10/18-19	NTC(東京)
日本スポーツ心理学会 第35回記念大会	11/14-16	中京大学名古屋キャンパス(愛知)
九州スポーツ心理学会	3月上旬	福岡
大阪体育学会	3月下旬	大阪
日本スポーツ方法学会 第20回記念大会	3月下旬	筑波大学(茨城)

<事務局より>

今回、3年ぶりに例会を開催し、その活動を「通信」という形で配信させていただきます。突然の例会再開の報にも関わらず、13名の先生方と4名の超若手研究者にご参加いただいたことに感謝いたします。また、急なお願いであったにも関わらず、発表を引き受けていただいた2名の先生には、ただただお礼を申し上げるのみです。特に、来田先生には学位論文としてまとめられた成果についてご発表いただき、高い水準の研究をまじかにし、超若手研究者のみならず、まだまだ発展段階にある若手・中堅研究者にも大いに刺激を与えていただきました。

今回残念ながらご都合がつかずご参加いただけなかった先生方には、もう少し早く準備・案内を進めるなどできていればと思います、事務局の勝手をお詫びします。しかし、メールにて連絡させていただいた方の半数は、返信すらありませんでした。近年、我々研究者もアカウントビリティー【accountability】を常に意識しなければならなくなりました。私見ですが、研究者に求められている最低条件は、study work publishという一連の生産性を持ったプロセスを経ていくことではないでしょうか？研究会も開催したという事実だけではなく、また、将来過去を振り返るためにも、それを残していくことが必要だと思われまます。今回の例会通信は、前世話人である津田忠雄先生(近畿大学)が作成されたものを模倣したものです。ある歌詞の引用ですが、「大事なのは変わっていくこと、変わらずにいること」とあります。伝統を受け継ぎ、より良いものを創造していく。今後益々本例会が発展していき、体育・スポーツ心理学に関する情報が関西から発信されていくようになっていくことを願っております。

また、例会に関するご希望、ご意見、あるいは体育心理学、スポーツ心理学に関する情報提供などありましたら、<kansaitaikushinri@gmail.com>までお願い申し上げます。

(W.O)